

## 日本語と中国語の空間表現についての対照研究

— 日本語「奥」とそれに対応する  
中国語の表現を中心に —

犬塚 優 司

### 1. 目的

本稿の目的は、日本語の空間表現の一つである「奥（おく）」とそれに対応する中国語の空間表現を対照し、両言語の話者の空間の捉え方の類似点と相違点を明らかにすることにある。

空間表現とは、空間を表す言語表現である。それぞれ言語ごとに、空間表現がどのように語彙化されているか、また構造化されるかは、多様である。

「上」と「下」、「前」と「後ろ」、「右」と「左」、「内」と「外」などの表現はほとんど全ての言語で普遍的に語彙化しているようである。これは、我々が非常に特殊な条件下にある場合を除いて、地球の表面で生活していることに由来している。

一方、日本語は「ここ」、「そこ」、「あそこ」と指示する空間を三分割して語彙化しているのに対して、中国語は“这儿zhèr（这里zhèlǐ）”、“那儿nàr（那里nàlǐ）”と英語は“here”、“there”と二分割して語彙化している。

本稿では、日本語の「奥」という表現を手がかりに、日本語と中国語の空間表現の語彙化の差異を明らかにする。そのために、まず「奥」が表す空間がいかなるものであるかを分析し、それが中国語に翻訳される際には、どのような表現で表されるかを示す。そして、日本語の「奥」と中国語のそれに対応する表現を対照し、両言語の話者が空間を捉える捉え方の類似点と相違点を考察する。

### 2. 日本語の「奥」

筆者は、「奥」を特定の領域内の一定の「場所」あるいは「方向」を表す表現であると考える<sup>1)</sup>。もちろん、「奥」にはいくつかの意味がある。たとえば、『集英社国語辞典（第2版）』には、次の六つの意味が記述されている。① 入口から遠い、中の方。「店のー」② 深く入った所。「山のー」③ 表面に表れない深いところ。「胸のー」④ 到達するのが困難な学問や芸の深み。奥義。⑤ 家の中で、家人のいつもいる所。「ー向きの用事」「ーに通ず」⑥ 貴人の妻。夫人。（身分の高い人が自分の妻を呼ぶときに使う。）

①、②、⑤は、具体的な空間表現である。③、④は抽象的な意味であるが、それを空間

として捉えようとしたものである。⑥は明らかに空間表現ではない。しかし、⑥は⑤から派生したことは容易に推量できる。すなわち、家の中で妻のいるところである⑤の意味での「奥」から、その場所「奥」にいる妻そのものを表すようになったのである。

また、「家の中で、家人がいつもいる所」は、一般に「入り口から遠い、(家の)中の方」であることが多いので、⑤は①からの派生であると考えられる。さらに、具体的な意味が抽象的な意味へと派生する<sup>2)</sup>と仮定するならば、③と④の意味は、②から派生したものと考えられる。

以上の分析から、「奥」の中心的な意味は、①、②にあると考えられる。

また、両者とも何らかの境界を持つ領域を前提としている。①については、「入口から遠い、中の方」と「入口」という表現を含んでいる。「入口」は「外」から「中」へ入る場所であり、それは、「中」と「外」を分離している境界があることを前提としている。また、「中の方」という表現は、「方向」の表現であることを示す。②については、「深く入った所」と「入った」という表現を含んでいる。「入る」とは「外」から「中」への移動を表すものである。また、「所」という表現は、「場所」の表現である<sup>3)</sup>。

①、②いずれも、何らかの境界を持つ領域の内部で、境界から離れた「方向」または「場所」を表しており、両者の大きな相違点は、①は、「入口」を意識した「方向」の表現であるのに対して、②は「入口」を前提にしない「場所」の表現である。

### 3. 「奥」に対応する中国語の表現

日本語の文章中の「奥」が、中国語に翻訳される場合は、どのような表現が用いられるのだろうか<sup>4)</sup>。

「奥」という漢字は、当然中国語にも存在するが、“堂奥(建物の奥まったところ)”などの一部の書面語中に現れることもあるが、日常会話においては、具体的な空間表現として用いられることはない。したがって、日本語からの翻訳文献においても、日本語の「奥」の訳語として中国語の“奥”が用いられることは、ほとんどないものと考えられる。

日本語からの翻訳文献において、翻訳者は日本語の「奥」を、「中」を表す“里面”などの語を用いる場合と「深いところ」を表す“深处”を用いる場合がある。

まず、「奥」が、「中」を表す“-里”<sup>5)</sup>、“里面”<sup>6)</sup>、“里首”<sup>7)</sup>などの表現<sup>8)</sup>で中国語に翻訳されている例文を示す。

次の例文(1a)、(2a)の「奥」は、内部空間を表しているが、(1a)の「家の奥」は具体的な家屋の内部空間を表しているのに対し、(2a)の「胸の奥」は抽象的な空間を表している。抽象的な空間表現についても、非常に興味深いのが、本稿においては、具体的な空間表現のみを対象とする。

(1a) 姉はそう言うのと、コートを脱ぎながらずんずん家の奥へ入っていった。(『妊娠カレ

ンダー』 p.14)

- (1b) 说完. 姐姐一边脱着大衣一边朝屋里走去。(《妊娠日历》 p.5)

Shuō-wán, jiějie yìbianr tuō-zhe dàiyī yìbianr cháo wū-li zǒu-qu.

言うー終える 姉 ~しながら 脱ぐー ZHE コート ~しながら ~に向かって  
家ー中 歩くー行く<sup>9)</sup>

- (2a) ただちょっと、胸の奥あたりが緊張しているのです。(『ドミトリー』 p.96)

- (2b) 只是心里有点紧张。(《学生宿舍》 p.56)

Zhǐshì xīn-li yǒudiǎnr jǐnzhāng.

ただ~だけだ 心ー中 少し 緊張している

例文(1a)は、境界を持つ「家」という空間の中で、入口あるいは境界から遠い方への移動を表す「方向」の表現である。この場合、「奥」を「中」で言い換えることはできない。既に「家」の内部にいる以上、さらなる家の中を想定することは日本語ではできない。例文(1b)は、「家の奥」を“屋里”と訳している。

例文(3a)では、移動は表されていない。「入口(階段)」から遠い位置に部屋があることを表している。この場合も、「奥」を「中」で言い換えることはできない。中国語の訳文(3b)では、「奥の座敷」を“里首的客厅”と表している。

- (3a) 二階の奥の座敷に台長夫人を招き入れた照吉は、自分で床柱の前に坐ったが、～(『潮騒』 p.169)

- (3b) 照吉把灯塔夫人让进二楼里首的客厅, 自己落坐在壁龛的立柱前, ～(《潮騒》 pp.144-45)

Zhàojí bǎ dēngtǎ fūren rāng-jìn èr lóu lǐshǒu de kètīng, zìjǐ luòzuò-zai  
bìkān de lìzhù qián, ～

照吉(人名) ~を 灯台 夫人 招くー入れる 二 階 中 DE1 客間 自分  
坐るー~に 床の間 DE1 柱 前

次の例文(4a)も、具体的な空間を表している。ただし、これまでの例文とは異なり、領域の外からその空間を描いている<sup>10)</sup>。

- (4a) クロワッサンの残りが二個出てきたので、すぐ奥の方に隠した。(『妊娠カレンダー』 p.48)

- (4b) 两个吃剩下的羊角面包露了下来. 我赶紧把它们藏到里面去了。(《妊娠日历》 p.27)

Liǎng ge chī-shèng-xia de yángjiǎomiànbāo lù-le-xia-lai, wǒ gǎnjīn bǎ tāmen  
cáng-dao lǐmian qù le.

二 個 食べるー残すー XIA DE1 クロワッサン 現れるー LE1 - XIA - 来る 私  
急いで ~を それら 隠すー~へ 中 行く LE2

例文(4a)は、登場人物がキッチンストッカーの中を見ている場面である。(4a)の「奥」は、具体的なキッチンストッカーという領域の中の、取り出し口から遠い空間を表している。この場合、クロワッサンはもともとキッチンストッカーの中にあり、それを更に取り出し口から遠い方に移動させて隠したのである。この場合、「奥」を「中」に言い換えることは可能と考えられる。それは、クロワッサンを見える位置から、その他の食品などで隠された「中」へ移動させたと考えることができるからである。中国語の訳文(4b)では、“里面”が用いられている。

(5a) 治療するのは一番奥の歯だったので、わたしは精一杯口を開けなければいけなかった。(『妊娠カレンダー』p.54)

(5b) 我治疗的是最里面的一颗牙，所以，我必须使劲张开嘴。(《妊娠日历》p.31)

Wǒ zhìliáo de shì zuì lǐmian de yì kē yá, suǒyǐ, wǒ bìxū shǐjìn zhāngkāi zuǐ.

私 治療する DE1 ~である 最も 中 DE1 一粒歯 だから 私  
~しなければならない 力を出す 開く 口

例文(5a)の「奥」は、具体的な口腔内の口から遠い部分を表している。この場合、「奥」を「中」に言い換えることはできない。中国語の訳文(5b)では、「奥」を“里面”で表している。

インフォーマント<sup>11)</sup>は、中国語の訳文のうち、(1b)、(3b)、(5b)については、“-里”、“里首”、“里面”を“深处”に置き換えると不自然になると指摘している。(4b)はキッチンストッカーがある程度奥行きのあるものであれば、可能であると言っている。

次に、「奥」が、中国語に「深いところ」を表す“深处”で翻訳されている例文を示す。

例文(6a)、(7a)、(8a)は、具体的な空間を表している。(6a)の「社の奥」ははっきりと「境界」があり、また「入口」もある「社」の内部空間である。(7a)の「木立」の「木立」は、「社」ほどはっきりしてはいないが、「境界」はあると考えられる。しかし、「入口」はないだろう。(8a)の「夜の暗黒の奥」の「夜の暗黒」には、「境界」も「入口」もないと考えられる。

(6a) 社の奥にまで、そのとき吹き入った風が森厳な響きを立てた。(『潮騒』p.26)

(6b) 这时候，直吹到神社黑暗深处的一阵风，发出了森严的响声。(《潮騒》p.19)

Zhè shíhòu, zhí chuī-dào shénshè hēi'àn shēnchù de yí zhèn fēng, fā-chū-le sēnyán de xiǎngshēng.

この時 まっすぐ 吹く-~まで 神社 暗い 深いところ DE1 一陣風  
発する-出る-LE1 森厳な DE1 響き

(7a) 泉をかこむ木立の奥で梟が啼いている。(『潮騒』 p.85)

(7b) 环绕泉潭的小树林的深处, 猫头鹰在啼鸣。(《潮騒》 p.73)

Huánrào quán tán de xiǎo shùlín de shēnchù, māotóuyīng zài tí míng.

取り囲む 泉の淵 DE1 小さい 林 DE1 深いところ 梟 ~している 啼く

(8a) 夜の暗黒の奥のほうから、風は襲いかかってその体にまともに当たったが、~ (『潮騒』 pp.157-58)

(8b) 风从夜间的黑暗深处袭来, 正面刮在他的躯体上。~ (《潮騒》 p.135)

Fēng cóng yèjiān de hēi' àn shēnchù xī-lái, zhèngmiàn guā-zai tā de qū tǐ -shang. ~

風 ~から 夜 DE1 暗黒 深いところ 襲う-来る 正面 吹く-~に 彼 DE1 身体-上

インフォーマントによると、例文(6b)の“神社黑暗深处”、例文(8b)の“夜间的黑暗深处”を、それぞれ“神社黑暗里面”、“夜间的黑暗里面”と言い換えることはできない。これは、“黑暗”という形容詞が“里面”を限定しているためと考えられる。“里面”の性質を考える上で、重要であると考えられるが、本稿では更に考察を進めない。一方、例文(7b)の“深处”を“里面”と言い換えて、(7b)ということができる。

(7b) 环绕泉潭的小树林的里面, 猫头鹰在啼鸣。

Huánrào quán tán de xiǎo shùlín de lǐmian, māotóuyīng zài tí míng.

また、これらの他に、「引き出しの奥」という表現を“抽屉”と「奥」に対応する表現を含まずに翻訳されている例、「受話器の奥」という表現の翻訳として“电话对面(受話器の向こう側)”が用いられている例や「大脳の奥の小脳の奥の松果体の奥の髓」という表現を“大脳下面的小脳后的松果体下面的脑髓里(大脳の下の小脳の後ろの松果体の下の髓の中)”と翻訳した例がある。大変興味深いですが、本稿では考察の対象とはしないことにする。

#### 4. 「奥」の中心的な二つの意味と中国語の対応する語句との関係

日本語の「奥」の中心的な意味は、①「入口から遠い、中の方」と、②「深く入った所」であり、両者の大きな相違点は①は「入口」を意識している点であると先に述べた。中国語では、それが“里面”など「中」という要素を持つ語と“深处”など「深い」という要素を持つ語に訳されている。当然、①の意味の場合は、“里面”などの語句が、②の意味の場合は、“深处”などの語句が用いられると予想できる。

しかし、例文(6a)は、神社の描写であり、当然「入口」を意識しているはずであるが、(6b)では“深处”が用いられている。

(6a) 社の奥にまで、そのとき吹き入った風が森厳な響きを立てた。(『潮騒』 p.26)

(6b) 这时候，直吹到神社黑暗深处的一阵风，发出了森严的响声。(《潮騒》 p.19)

一方、例文(7a)の「木立の奥」を、(7b)のように“小树林的里面”と訳すことも可能である。

(7a) 泉をかこむ木立の奥で梟が啼いている。(『潮騒』 p.85)

(7b) 环绕泉潭的小树林的里面，猫头鹰在啼鸣。

つまり、具体的なものの奥で、「入口」が意識のあるなしと、「里面」、「深处」の訳し分けには特に関係ないようである。

## 5. 日本語の「奥」、「中」と中国語の“里面”との対照

日本語の「中」は、一定の境界の囲まれた内部の「場所」、あるいは、「外」または境界<sup>12)</sup>から内部への「方向」を表す。それに対して、「奥」は、境界の内部のうち境界から遠い「場所」、あるいは、内部において境界から遠ざかる「方向」を表している。

一方、中国語の“里面”は、日本語の「中」と「奥」の両方の「場所」あるいは「方向」を表しうる。したがって、中国語においては、ある領域の“里面”においても、更に“里面”を想定することができる。同様に、日本語の「奥」は更に「奥」を想定できる。

(1b)において、既に家の中に入るにもかかわらず、“朝屋里走去”と言っているし、(3b)においては、二階の中のことであるにもかかわらず、“二楼里首的客厅”と述べている。

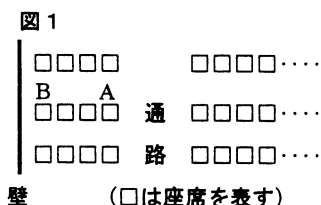
(1a) 姉はそう言うと、コートを脱ぎながらずんずん家の奥へ入っていった。(『妊娠カレンダー』 p.14)

(1b) 说完，姐姐一边脱着大衣一边朝屋里走去。(《妊娠日历》 p.5)

(3a) 二階の奥の座敷に台長夫人を招じ入れた照吉は、自分で床柱の前に坐ったが、～(『潮騒』 p.169)

(3b) 照吉把灯塔夫人让进二楼里首的客厅，自己落坐在壁龕的立柱前。～(《潮騒》 pp.144-45)

図1は講堂の壁際の席を表しているとする。座席Aに座っている人に対して、座席Bに移動してほしいことを伝える場合、中国語において(9)ということは可能である<sup>13)</sup>。同じ場面で、日本語では、(10)は自然であるが、(11)とは言えない。



(9) 请到里面坐。

Qǐng dào lǐmian zuò.

どうぞ～して下さい ～へ 中 坐る

どうぞ奥に坐って下さい。

(10) どうぞ奥に坐って下さい。

(11) どうぞ中に坐って下さい。

日本語においては、ある領域、図1では壁に近い座席の列の「中」において、更に「中」を想定することはできないのである。

ところが、(4a)については、(4a')と言い換えることが可能と考えられる。

(4a) クロワッサンの残りが二個出てきたので、すぐ奥の方に隠した。(『妊娠カレンダー』 p.48)

(4a') クロワッサンの残りが二個出てきたので、すぐ中の方に隠した。

この場面はキッチンストッカーの中を問題にしている。(4a')の「中の方」は、キッチンストッカーの他のいろいろな品物の中、品物によって外から見えなくなった領域を表していると考えられる。つまり、キッチンストッカーの中という領域に新たな領域が想定されているのである。

また、バスに乗り込んでくる人に対して運転手が(12)のように言うことは可能である。

(12) 入口付近は込み合いますので、中にお進み下さい。

これは、「バスの中」にいる人に対して更に「中」に進むように言っているようである。しかし、これは今まさにバスに乗り込み、入口付近に留まっている乗客に対して言っているのである。「入口付近」<sup>14)</sup>と「付近」という語がついているが、「入口」は、バスの「中」と「外」の境界である。境界にいる人だから「中」へ移動すると言うことが可能になるのである。なお、例文(13)の「中」を「奥」に置き換えることも可能である。

(13) 入口付近は込み合いますので、奥にお進み下さい。

さらに、中国語ではある領域の“最里面(最も中)”という表現が可能である。

(5a) 治療するのは一番奥の歯だったので、わたしは精一杯口を開けなければいけなかった。(『妊娠カレンダー』 p.54)

(5b) 我治疗的是最里面的一颗牙，所以，我必须使劲张开嘴。(《妊娠日历》 p.31)

一方、日本語では、「最も中」という表現は自然な表現ではなく、「最も奥」となる。

## 6. 外からの移動の表現

外から入口を通して中に入り、更に入口から遠いところに移動するという状況を想定することは可能である。

(14) 私は丸めた紙をゴミ箱の中へ投げ込んだ。

(15) 私は丸めた紙をゴミ箱の奥へ投げ込んだ。

例文(14)は可能であるが、例文(15)は微妙である。例文(15)は、少し離れたところからゴミ箱へ投げ込んだというよりも、ゴミ箱の口のところから投げ込んだと考えられる。中国語の場合も、例文(16)は自然であるが、例文(17)は離れたところから投げたという状況ではかなり不自然である。

(16) 我把一团纸扔在垃圾箱里面。

Wǒ bǎ yì tuán zhǐ rēng-zai lājīxiāng lǐmian.

私 ～を 一 かたまり 紙 投げる ～に ゴミ箱 中

私は一かたまりの紙をゴミ箱の中に投げ込んだ。

(17) 我把一团纸扔在垃圾箱深处。

Wǒ bǎ yì tuán zhǐ rēng-zai lājīxiāng shēnchù.

私 ～を 一 かたまり 紙 投げる ～に ゴミ箱 深いところ

私は一かたまりの紙をゴミ箱の奥に投げ込んだ。

したがって、日本語においても、中国語においても、「外から入口を通して中に入り、更に入口から遠いところに移動するという状況」は、「外から入口を通して中へ移動することあるいは「入口から、入口から遠いところへ移動する」ことに分割されるのである。

## 7. 場所の表現の対照

日本語の「中」、「奥」と中国語の“里面”、“深处”を、対照し、分析してきた。その結果、場所の表現について、どのようにに構造化しているかを、次のようにまとめることができる。

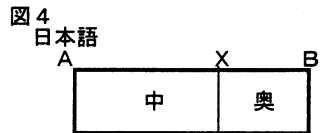
問題としている表現は、両言語とも、境界あるいは入口とそこから一番遠いところを意識された表現である。そこで、境界あるいは入口を点A、そこから一番遠いところを点Bで表す。本来、平面空間であり、境界は線となる。しかし、境界上の全ての点がAで代表されていることとする。

とすると、ある領域の内部空間は、図2のような線分ABで表される。この線分上に、境界あるいは入口から遠いと話し手が感じ始める点が存在する。それを点Xで表す。この点の位置は、それぞれの言語、それぞれの話し手によって異なっている<sup>15)</sup>。





日本語において、「中」は線分AXの空間を表し、「奥」は線分XBの空間を表す。中国語においては、“里面”は線分ABの空間を表し、“深处”は線分XBの空間を表す。それぞれの表現が表す空間をわかりやすくするために、線分ABに幅を持たせて、整理すると、日本語は図3のように、中国語は図4のようになる。



### 8. 方向の表現の対照

方向の表現がどのように構造化されているかは、次のようにまとめることができる。

「境界あるいは入口」から一番遠いところ（図2の点B）から、「入口あるいは境界」（図2の点A）を通して伸びていく線を想定する。話し手は、その線上のいずれかの一点を動作の出発点に指定し、「境界あるいは入口」から一番遠いところへ向かうことになる。この動作の出発点を「起点」と呼ぶことにする。その線上で「境界あるいは入口」から一番遠いところへ向かう「方向」を、「起点」と「入口あるいは境界」との関係から分類すると、次の四つの「方向」が想定することができる。

$\alpha$  : 「領域」内部に「起点」があるもの。

$\beta$  : 「入口あるいは境界」に「起点」があるもの。

$\gamma$  : 「領域」外部に「起点」があり、「入口あるいは境界」を通して、「領域」内部に及ぶもの<sup>16)</sup>。

$\delta$  : 「領域」外部に「起点」があり、「領域」内部までは及ばないもの。

図5

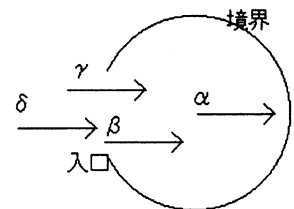


図5は、この四つの「方向」を図示して表したものである。ただし、同じ線上に示そうとすると煩雑になるので、少しずらして示している。

日本語において、 $\alpha \sim \delta$ の「方向」について、「中」と「奥」のいずれが使われるかを表にまとめると、表1のようになる。

表1

日本語	$\alpha$	$\beta$	$\gamma$	$\delta$
中	x	○	○	x
奥	○	○	x	x

中国語において、 $\alpha \sim \delta$ の「方向」について、「里面」と「深处」のいずれが使われるかを表にまとめると、表2のようになる。

表2

中国語	$\alpha$	$\beta$	$\gamma$	$\delta$
里面	○	○	○	x
深处	○	○	x	x

### 9. 結論

これまでの考察をまとめると、日本語の「中」は、「境界」によって、「外」と隔てられた空間であり、境界から遠ざかっても、更なる「中」は存在しない。そこで、「中」という空間において、入口または境界から遠ざかる方向あるいは場所を表すものとして「奥」

が存在しているのである。したがって、「更に奥」や「最も奥」などの表現が可能なのである。

日本語の「奥」は、多くの場合、「入口」を意識して用いられる<sup>17)</sup>。それはちょうど「洞窟」のように、「入口」によって、「外」と「中」が分割され、どこかに「行き止まり」すなわち「最も奥」という場所が存在していると想定されているのである。これを「洞窟」のメタファーと呼ぶことができるであろう<sup>18)</sup>。

一方、中国語の“里面”は、一定の領域の内部を表すが、「境界」から遠ざかるにしたがって、更なる“里面”が生じる。それは、ちょうど「入れ子」あるいはロシアの「マトリョーシカ人形」のように、“里面”が連続して「境界」から遠ざかっていくのである。これを「入れ子」のメタファーと呼ぶことができよう。

中国語の“深处”について、考えてみると、これは“深处”の“深”は、「深い」という意味である。地表面から地中へ向かって遠ざかっていくことを表したものである。つまり、“深处”は、「境界」を地表面という想定し、そこから遠ざかる方向あるいは遠い場所を表していることになる。これは、「堅穴」のメタファーと呼ぶことができよう。

## 注

- 1) 瀬戸賢一(1995)は、空間がどのように構造化されるかを考察するに際して、「場所」と「方向」の二つの軸を想定している(p.90-91)。
- 2) これはメタファーによる意味の派生と考えることができる。ウルマン(1969, p.246)は「隠喩の基本的な傾向の1つは抽象的な経験を具体的な形で表そうとするものである」と述べている。
- 3) 「奥」には、方向と場所の両方の概念が共存しているのである。「奥へ奥へと進む。」という場合は、方向を表しており、「部屋の奥にある。」という場合は、場所を表している。
- 4) 本稿においては、「奥」を考察の対象とし、「奥深い」「奥底」「奥行き」などの語については考察しなかった。
- 5) 名詞句に“-里”が後接し、「～の中」という意味になる。
- 6) 中国語(普通話)には“里面”と同じ意味で“里边”、“里头”がある。
- 7) “里首”は普通話ではあまり見かけない語である。意味は“里面”と同じである。
- 8) 以下“里面”をもってこれらの表現を代表させる。
- 9) 中国語の訳文は、第1列に漢字での表記を示し、第2列にそのピンイン表記を示し、第3列に各語または文法的意味を示す。ただし、同じ訳文を二回以上使う場合は、二回目以降は漢字での表記のみを示す。なお、ピンイン表記は文法的な区切りをハイフンで示しており、一般的な表記法と異なっている部分がある。また、ZHEは持続を表すアスペクト助詞を、XIAは方向動詞“下”を、DEIは助詞“的”を、LE1は完了を表すアスペクト助詞を、LE2は完結や変化を表す終助詞を表す。
- 10) 瀬戸賢一(1995)は、眺める主体が空間内のどこに定位されるかが重要であることを指摘している(p.166)。
- 11) インフォーマントは、島根県立大学総合政策学部非常勤講師邱燕凌先生(吉林省吉林市出身、女性)にお願いした。その際、先生から多くのご助言をいただいた。この場を借りて邱先生のご協力に感謝の意を表するものである。なお、本稿の内容に関しては、筆者にその責任があることは言うまでもない。
- 12) 境界付近も含む。例文(12)参照。
- 13) 出典を示していない例文は、筆者の作例である。中国語の例文は、第1列に漢字での表記を示

し、第2列にそのピンイン表記を示し、第3列に各語の訳ないしは文法的意味を示し、第4列に日本語訳を示す。第3列に示した記号については、注9)を参照。

- 14) バスが停車している場合、バスの「中」だけでなく、バスの「外」にも「入口付近」が存在しうる。つまり、「入口付近」は「入口」の両側に広がっている空間を表しているのである。
- 15) たとえば十分に狭い「領域」である場合のように、具体的な「領域」の形状から、そのような点Xが存在しない場合も考えられる。この場合は、日本語の「奥」という表現そのものが生じないので、考察の対象としない。
- 16) 「方向」が及ぶ範囲とは話し手の意識が及ぶ範囲と考える。
- 17) 「森の奥」や「木立の奥」、「夜の奥」など、「入口」を意識していない表現については、更なる分析が必要であろう。ただし、人が「森」の中に入るために、道をたどってどこかで「境界」を越えることになる。そこを「森の入口」と想定していると考えられることは可能であろう。
- 18) 瀬戸賢一(1995)は空間表現を様々なメタファーによって説明しようとしている。

#### 使用テキスト

小川洋子『妊娠カレンダー』(小川洋子『妊娠カレンダー』pp.5-72所収)

小川洋子/译:李强《妊娠日历》(小川洋子/译:李强、潘钧《妊娠日历 中日女作者新作大系・日本方阵》pp.1-42)

小川洋子『ドミトリエ』(小川洋子『妊娠カレンダー』pp.73-146所収)

小川洋子/译:李强《学生宿舍》(小川洋子/译:李强、潘钧《妊娠日历 中日女作者新作大系・日本方阵》pp.43-88)

小川洋子『妊娠カレンダー』(1991年、文藝春秋)

小川洋子/译:李强、潘钧《妊娠日历 中日女作者新作大系・日本方阵》(2001年、中国文联出版社)

三島由紀夫『潮騒』(1955年、1985年改版、新潮文庫)

三島由紀夫/译:唐月梅《潮騒》(2003年、北京出版社)

#### 使用辞書

編:森岡健二他(2000)『集英社国語辞典(第2版)[横組版]』(集英社)

#### 参考文献

ウルマン, S. /訳:池上嘉彦(1969)『言語と意味』(大修館書店)

瀬戸賢一(1995)『空間のレトリック』(海鳴社)

Lyons, John(1977) "Semantics 1, 2" (Cambridge University Press)